

引用形式「と」の性質から見た繰り返し表現の機能

一繰り返し表現による「感情的機能」を中心に一

カンジャマーポンクン サティダー 大阪大学大学院

1. 研究目的

本研究では、「繰り返し表現+引用形式「と」および「って」¹⁾という表現形式を対象として、会話における繰り返し表現そのものの機能を再考察し、繰り返し表現に後続する「と」「って」の機能について明らかにしていく。また、「と」「って」の有無によって繰り返し表現および発話の意図がどのように影響を及ぼすかについて探っていくことを目的とする。

2. 研究背景と問題の所在

繰り返し表現とは書き言葉においても話し言葉においても、ある文脈に既に現れた語や文などを何度か再現することである(中田 1992)。また、繰り返し表現は我々の日常会話では下の(1)の「結婚」のように発話者が相手の発話をオウム返しすることで先行発話をそのまま繰り返すという形で出現するのが、繰り返し表現の中での一般的な表現形式である。

(1) (藤本はまだ若いにもかかわらず、急に結婚することにしたと言い出した。)

藤本「お久しぶりです。・・・実は私結婚することになったんです。」

ミチコ「結婚!? なんで? ふじもっちゃんまだ若いのに。」²⁾ (ダメな私に恋してください 第1話)

一方、実際の会話では繰り返し表現のみという形にとどまらず、下記の(2)と(3)のように発話者は先行発話のみ繰り返すのではなく、引用形式「と」「って」が繰り返しの部分に後続するという形で出現するものも少なくない。しかし、繰り返し表現と引用形式「と」「って」については従来から多く研究されてきたにもかかわらず、「繰り返し表現+引用形式「と」「って」¹⁾という繰り返し表現と「と」「って」の複合形についての研究は管見の限り見当たらない。

(2) (半沢が出向されたにもかかわらず、まだ会議に参加している。)

浅野「半沢くん、なぜここにいるのかね？」

半沢「なぜとは？」

浅野「君は他にやるべきことがあるんじゃないのかね？」

半沢「やるべきこととは何でしょうか？」

¹⁾ 引用形式「と」「って」は、「～とは?」「～という?」「～ってなに?」「～ってどういう意味?」などという様々な形式で表現されることが非常に多く見られる。本研究では便宜上、それぞれの表現を全て「と」「って」という形で示す。

²⁾ 以降、「_____」の線は、発話者が繰り返した相手の先行発話を指す。「_____」の線は、発話者が相手の発話、つまり「_____」というところを繰り返した箇所を指す。加えて、繰り返した発話は直接繰り返しあるいは間接繰り返しである。また、「_____」の線は、発話者が繰り返した発話に主な関係性がある要素を指す。

浅野「荷物の整理ですよ。」

(半沢直樹 第5話)

(3) (滋はつくしの家について話している。)

滋「なんかこの部屋懐かしい感じするなあ。あつ、何でか分かった！」

昔うちで飼ってたハトの囚屋に大きさも汚さも似てるからだ〜」

つくし「ハトの囚屋って・・・」

(花より男子2 (リターンズ) 第4話)

従来の研究では引用形式「と」「って」の典型的機能は「引用の機能」であると述べており、上記の(2)と(3)の場合は典型的機能から派生したものであると述べている(池谷2018、加藤2010、鈴木2007、藤田2000)。藤田(2000)は、(2)のような「トハ」形式は一つの独立した複合辞となっていると述べている。また、藤田(2000)によれば、「トハ文」は「コトバをとり上げて、それを定義づけたり解説もの」と「そんなコトバを言われたということを受けて、それに対する判断・評価・所感・とがめ立てを述べるもの」という2タイプにあると説明している。また、(3)のような派生した機能は「終助詞機能」と呼ばれ、「強調」、「独り言」や発話者の「意外感」「不満」「驚き」などの感情を表明する機能を持つと主張している(池谷2018、加藤2010、鈴木2007)。しかし、(3)の場合は以下の(3')の「ハトの囚屋・・・」のように引用形式「って」が付加されなくても、発話者の「驚き」「意外感」や「不満」などの感情は表明されていることが読み取れる。従って、発話者の感情は引用形式「って」によって生じるものではなく、むしろ「って」の前の要素、つまり繰り返し表現によって生じるのではないだろうか。

(3') つくし「ハトの囚屋・・・」

(筆者作例)

3. 考察と結論

3.1 繰り返し表現の発話機能

日本のテレビドラマとテレビアニメという実際の会話例合計604例を資料として繰り返し表現の機能を再考察したその結果、繰り返し表現の機能は「時間稼ぎ」「相手の発話の促進」「説明要求/確認要求」と「感情の表出」という機能が見られた。繰り返し表現における「時間稼ぎ」は発話者が質問された際に用いられており、相手に何らかの情報を要求されすぐに返事することができなかつたため、相手の質問の主な部分を繰り返しながら、自分に考える時間を与えるのである。繰り返し表現における「相手の発話の促進」とは相手が発話している途中、急に話が止まり話が進まない状態になった時に、発話者が相手の話が止まった時の最後の語や句を繰り返し、相手の話の進行を促すことである。また、繰り返し表現における「説明要求/確認要求」とは発話者が相手の言っている語や句の意味または内容について把握できなかつたため、相手の発話を繰り返しそれぞれの語や句に対する説明や確認を求めるということである。一方、繰り返し表現における「感情の表出」は前述した「時間稼ぎ」「相手の発話の促進」「説明要求/確認要求」と異なり、相手から何らかの情報を要求するおよび相手に情報の説明を与えるのではなく、むしろ発話者は相手の発話に対してある種の「感情」を表出するのである。また、本調査から「感情の表出」としての繰り返し表現は総例文604例の中に501例(83%)見られた。それに対して、「時間稼ぎ」「相手の発話の促進」「説明要求/確認要求」としての繰り返し表現は総例文604例の中に103例(17.1%)見られ、98例は「説明要求/確認要求」の例であり、「時間稼ぎ」「相手の発話の促進」と比べると、最も多く用いられたことが観察された。このように、繰り返し表現の機能

は「感情の表出」を通常の「時間稼ぎ」「相手の発話の促進」「説明要求／確認要求」と比較すると、「感情の表出」の方が多く用いられていることがわかった。

3.2 繰り返し表現に後続する引用形式「と」「って」の出現率

本研究で日本のテレビドラマとアニメを資料として収集したデータ用例合計 604 例を考察した結果、以下の図 (1) が示すとおり、繰り返し表現のみという形式は 519 例 (86%) 見られ、全体の大部分を占めていることがわかった。それに対して、本研究の対象である「繰り返し表現＋引用形式「って」」という形式は全体の用例の中で 66 例文 (11%) が見られ、「繰り返し表現＋引用形式「と」」という形式は 19 例 (3.20%) が見られたが、繰り返し表現のみという形式と比較すると、圧倒的に少ないと言える。

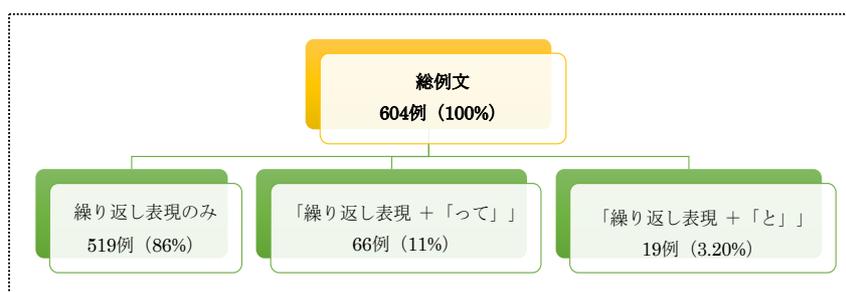


図 (1) 繰り返し表現と引用形式「って」の出現率

3.3 繰り返し表現に後続する引用形式「と」「って」の機能と繰り返し表現との関係性

本調査からの用例のほとんどは、以下の (4) と (5) のように発話者は「繰り返し表現＋引用形式「と」「って」」という表現形式で相手から何らかの情報を求めているということが観察された。しかし、この場合は (4') と (5') のように引用形式「と」「って」が付加されていない、「最高のエンディング?」「助かる?」という繰り返し表現だけでも「説明要求／確認要求」が伝達されていることは明らかである。つまり、「バラの花束」と「通ってる銭湯がたまに平日休むんです」という相手からの情報提供や説明からわかるように、(4) と (5) の繰り返し表現は通常の「説明要求／確認要求」という機能を表していることが明らかである。

(4) (社員用のジムについて話している。)

堀「美咲さ～ん、すごいですよ。ここサウナにジェットバスまで付いています。」

柴山「それは助かる。」

三浦「ん？ 助かるって？」

柴山「通ってる銭湯がたまに平日休むんです。」

(世界一難しい恋 第1話)

↓

(4') 三浦「ん？ 助かる？」

(筆者作例)

(5) (女性にサプライズをする方法について話している。)

和田「最後の最後まで何もないと思わせといて、最高のエンディングを用意するんだよ。」

鮫島「最高のエンディングとは？」

和田「バラの花束。」

(世界一難しい恋 第4話)

↓

(5') 鮫島「最高のエンディング?」

(筆者作例)

一方、次の(6)と(7)は一見すると、発話者が情報を求めているように見えるが、実際は上述した(4)と(5)とは異なり、発話者が相手の発話を繰り返した後に相手からの説明や確認が後続しない。要するに、発話者の意図は相手から「同窓会」「乱暴な高校生」という言葉の内容の説明または確認を要求することではなく、むしろ相手が言った「同窓会」「乱暴な高校生」に対する「不満」「苛立ち」などの否定的感情を表出することである。加えて、(6')と(7')のように「(だ)と」「って」が付加されなくても、明らかに発話者が繰り返した「同窓会」「乱暴な高校生」自体に既に相手に対する「不満」「苛立ち」が内在していると言える。

(6) (事務所の仕事がたくさんあるにもかかわらず、黛は同窓会に行くことにした。)

黛「高校の同窓会です。今日これから。」

古美門「同窓会だと? 事務所の苦境をほったらかして、過去を美化してお互い慰め合うだけの何の発展性もない集会に出るといのか?」

(Legal High 2 第2話)

↓

(6') 古美門「同窓会?・・・(略)・・・」

(筆者作例)

(7) (高校生たちがアルバイト先の上司と喧嘩している。)

上司「なんて乱暴な高校生なんだ。」

高校生たち「乱暴な高校生って!!?」

(クレヨンしんちゃん)

↓

(7') 高校生たち「乱暴な高校生!!?」

(筆者作例)

以上の考察から、引用形式「と」「って」が後続されなくても、繰り返し表現のみでは(4')と(5')のような通常の「説明要求/確認要求」および(6')と(7')のような「感情の表出」の両方が伝達されることが明らかになった。しかし、本調査の繰り返し表現の機能からわかるように、実際の会話では繰り返し表現は「時間稼ぎ」「相手の発話の促進」より「説明要求/確認要求」という機能として用いられることが多く見られたが、「感情の表出」という機能と比較すると、圧倒的に少ないことが明らかになった。要するに、繰り返し表現のみでは、通常の「説明要求/確認要求」、つまり相手からの情報を要求することを表すには向かない表現であると考えられる。一方、本調査において見られた繰り返し表現に「と」「って」が後続する場合は「感情の表出」より通常の「説明要求/確認要求」を表す用例が非常に多く見られたため、引用形式「と」「って」が付くことによって、通常の「説明要求/確認要求」の機能へと傾くのではないかと考えられる。

参考文献

池谷知子 (2018) . 引用形式「って」における終助詞的機能 神戸松蔭女子学院大学研究紀要言語科学研究所 篇, 21 卷, pp. 41-69.

加藤陽子 (2010) . 話し言葉における引用表現 くろしお出版

鎌田修 (2000) . 日本語の引用 ひつじ書房

中田智子 (1992) . 会話の方策としてのくり返し 国立国語研究所報告 104, 研究報告集 13, 267-302.

藤田保幸 (2000) . 国語引用構文の研究 和泉書院